

谷川 望 牧師

\* 神から平等に与えられる「いのち」。私たちはこの地上で生きている。肉体と靈魂で構成される「いのち」は神から来る。神が私たちひとりひとりを良いものとして、ご自身の形に似せて造られたのである。また、他人のいのちも同じように神から与えられたのだから尊いものだ。傷をつけたり、奪ったりするのはもっての外である。

\* 「いのちが一番たいせつだと思っていたころ 生きるのが苦しかった  
いのちより大切なものがあると知った日 生きているのが嬉しかった」

星野富弘さんの詩であるが、普通、「いのちより大切なもの」があるのだろうか、と疑問に思うだろう。何をするにしても死んだら終わりではないだろうか、と。その「いのちより大切なもの」とは、あるとすれば何だろうか。この答えは？「その答えはこうですよ、と言うことは簡単だけど、きっとそれは意味のないことです。自分で苦しみながら見つけた時に、あなたにとって意味があるのです。」と星野さんは言われる。

\* 「いのちより大切なもの」は何かを考えるヒントとして、今日のみことばを挙げる。「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」(ヨハネ3 : 16) これは「小型聖書」と言われるように、聖書の真髄を表しているみことばである。キーワードは「永遠のいのち」。この「永遠のいのち」はすべての人に平等に与えられているものではない。特別な人だけに与えられる「いのち」である。特別な人といっても、ある条件を満たす人には平等にチャンスが与えられている。その条件とは「御子を信じる」ということである。「御子を信じる」とは先ず、イエス・キリストが神の御子であることを信じること。そして、この方は、私の罪を背負って、私の代わりに十字架にかかってくださったことを信じること。そして三日目に死に打ち勝ってよみがえられ、父なる神のもとに帰られ、今も生きて私たちを執り成し、導いてくださっていることを信じることである。そうすれば、「永遠のいのち」が与えられる。

\* 「永遠のいのち」とは、「滅びる」と反対で、神が永遠に私とともにいてくださるといことである。「神の国」「天国」と同じ意味である。それは御子を信じた時に与えられるが、死んでからもそれは続き、イエスが再び来られた時には朽ちない体によみがえり、永遠に神とともに生きることができるという約束である。

日本同盟基督教団 古河教会 牧師 長谷川 望

〒306-0044 茨城県古河市新久田478-10 E-mail:[kogach@koganet.ne.jp](mailto:kogach@koganet.ne.jp)

Tel: 0280-48-3088 Fax: 0280-48-6710 HP : [www.koganet.ne.jp/~kogach/](http://www.koganet.ne.jp/~kogach/)